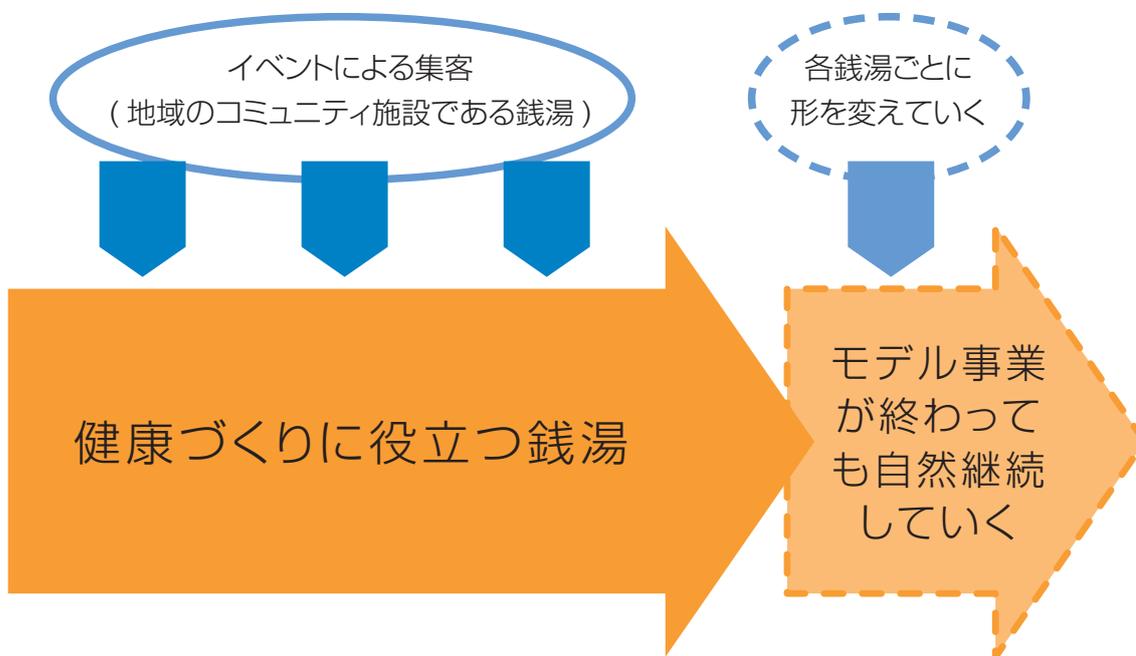


この事業に対する基本的な考え方

各地域に一定の距離をおいて配されている公衆浴場は、生活習慣病の増加、核家族化や高齢化の進行、凶悪犯罪の増加など、様々な問題を抱える 21 世紀の社会で、地域住民が交流し、生活情報を発信し、心身の健康を養う場としての役割を担うのにふさわしい場所であると思われます。

ただ、家庭風呂の普及やスーパー銭湯の出現により、公衆浴場を取り巻く環境は大きく変化し、銭湯に通う人の数が減少しているため、地域住民の心身の健康を養うには、まず「いかにして地域住民に銭湯に来てもらうか」が課題となるのではないのでしょうか。

そのため、京都府指導センターでは、「健康づくりに役立つ銭湯」をモデル事業のベースにおき、話題性のあるイベントにより幅広いみなさんに関心をもってもらい、地域住民を集めるということで、この事業を整理しました。



とくに 18 年度においては、健康づくりに役立つという銭湯の新しい役割を広く知ってもらおうと、『京都健康銭湯ぶろじえくと』と題し、健康入浴推進員のいる 62 軒の銭湯で、健康管理カードを 5 日間つけて応募すれば、折りたたみ自転車が当たるというキャンペーンを実施しました。

Q&A 銭湯KING が生まれるまで

Q 企画はだれが立てたのですか？

A 企画はすべて指導センターで決定します。全体の構想については、すべての企画において、担当者が外で拾った意見や資料やそれについて思うことを指導センター内で話し合います。会議という堅苦しい雰囲気では意見が出にくいので、日常会話の中で、ふとした思いつきを話し合いにより広げて、組合の意向なども確認しつつ、色々なパターンを考え、ある程度の枠組みができたところで、担当者が実務レベルに落とし込みます。一般的に会社で行なわれている作業と同じではないでしょうか。

京都の銭湯好きの皆様

日頃は銭湯をご愛顧いただき、大変有難ございます。
この度、銭湯をより良くするため、また銭湯を知らない方々に銭湯の良さを知っていただき、皆様にお集まりいただき、銭湯についてお話しただけなかなと思ひ、僅しを企画いたしました。銭湯のどこが好きか、何故好きなのかを語っていただき、参加者の投票により1番の銭湯好きとされた方にはささやかな賞品をご用意いたしました。是非、エントリーシートにてご参加ください。
※QUEENですぐという方の応募もお待ちしております。

参加・観覧無料！

京都銭湯KING

日時  平成18年8月26日(土)
午後1時～午後2時30分

賞品は

-  入浴券1ヶ月分
-  銭湯のれん
-  ボディタオル1年分

裏面エントリーシートでお申し込み下さい
参加者全員にボディタオルプレゼント

公衆浴場組合理事長の認定証も授与されます！

開催内容 

参加者には3分～5分程度、自分がいかに銭湯が好きかということをお話していただきます。紙芝居や文章の朗読など、方法は問いません。会場審査員の票数により、1番の銭湯好き(銭湯KING)を決定し、認定証と賞品を授与いたします。会場で審査していただく参加者も募集しております。

開催場所  京極湯

上京区土屋町通一条下る東西儀屋町666



千本中立売



主催：財団法人京都府生活衛生営業指導センター TEL075-722-2051

FAX (075) 711-6123
(財) 京都府生活衛生営業指導センター宛

京都銭湯KINGエントリーシート

氏名	
住所	〒
電話番号	
参加形式 (いづれかに○)	出場 ・ 観覧(会場審査員)
事前PR等	銭湯歴: 年
	好きな銭湯:
	その他:

※いただいた個人情報については、今回の京都銭湯KINGのイベント以外には使用いたしません。

この事業は財団法人京都府生活衛生営業指導センターが行なう健康入浴推進事業です
健康入浴推進事業は、地域住民に身近な交流の場である銭湯を活用し、生活習慣病の予防、改善に繋がる様々な健康増進活動に関する正しい知識を提供するほか、実践的な健康増進活動により、国民の健康増進に寄与することを、健康増進に有効な活動と認め、事業を支援していること、財団法人京都府生活衛生営業指導センターが実施する事業です。

Q

どうしてそのような企画が出てきたのですか？

A 銭湯 KING については、他のイベントの長所を比較検討することから始めました。「銭湯の良さを、銭湯を知らない人にわかってもらういい方法は？」という命題と、組合の「銭湯のシンポジウムみたいなものをしたい」という意見。でも普通のものでは話題性に欠け、銭湯に深い関心のある人のみの集まりとなってしまうことが問題です。ベースとなる『京都健康銭湯ふろじえくと』の広報をするために、初回のイベントは目玉的なものにしなければなりませんでした。

話しているうち、「銭湯好きの発表会にすれば」「それなら一番を決定して商品をあげれば」と進み、企画の枠組みが決定。その後組合などに確認の上、チラシを作成する際にイベント名と詳細を詰めてできあがりました。

「発表会方式にする」というのは、フリーペーパーに掲載されていたイベント報告が発想の源です。銭湯など外へ出向き、銭湯経営者や組合、府などから情報や意見をもらい、それを煮詰めて企画にするのが指導センターの役割だと考えています。ただ絵に描いた餅では仕方ないので、常に協力してもらえるネットワーク、人材等をつくり、頭に入れておく必要があると思います。

またイベントの題名も楽しく、目を引くものにすることが大事だと思います。今回の企画はどちらかといえば「銭湯を知らない人 = 若い人」をターゲットに考えたものですが、意外にも近隣の高齢者の方から「昔の銭湯に戻ったみたいで嬉しい、楽しそうなので是非話を聞きたい」「近くにいるけど、年寄りだと思って遠慮して足が遠のいていた。チャンスと思い参加します」という声をお寄せいただき、幅広い年齢層の参加があり、よかったと思います。



Q

外部の協力者には
どうやって依頼したのですか？

A この企画の肝は、“出場者”をいかにして集めるか、でした。企画が決まってすぐ、協議会の委員であるフリーライターに協力を依頼しました。自ら銭湯フリークとして京都の銭湯のホームページを独自につくり、銭湯好きの人たちのネットワークを持っている方です。アイデアの源となったフリーペーパーの編集長にも協力を依頼しました。その他、浴場組合の組合員の皆さんや近隣のお店に、応募用紙のついたチラシを配布してくれるようお願いしました。

また、京都新聞の無料イベント告知コーナーはじめ各メディアにイベントの告知、取材依頼をFAXし、数社に告知記事を掲載してもらうことができました。



Q

経費はどこが負担しましたか？

A 「会場代」と1等商品の「入浴券1ヶ月分」は指導センターが負担し、「のれん」と「ボディタオル1年分」は組合からご提供いただきました。協賛企業を募ったところ、協賛金を出していただけたところもありました。

公衆浴場側には、イベント前にポスターの張り出しや顧客への声かけを、当日は脱衣場を会場にするための敷物・椅子・机の配置などをお願いしました。また、当日の参加者は無料入浴としてもらいました。

Q

当日までのスケジュールを教えてください。

A 7月中旬に企画をたて、各方面に確認・調整をとり、チラシを作成しました。7月下旬から出場者を募り、チラシ配布、各メディアへのFAX、審査員の依頼などを1日～2日で行ない、出場者及び参加者の応募締切は3日前くらいまでとしました。その合間にアンケート、景品、粗品の手配をしたくらいで、あまり手のかからない企画でした。

全国でこのようなイベントが行われ、「日本銭湯 KING」が生まれたら、公衆浴場の良いPRとなるのではと思います。